中部大学

2026 中部大学民族資料博物館
秋季企画展

発光生物とエスノバイオロジー

Luminous Organisms and Ethnobiology



2026年
10月30日［金］～12月25日［金］

※平日開館が基本ですが、次の日程は特別開館します。
特別開館日［10月31日（土）、11月3日（祝日）、23日（祝日）］

主催／中部大学民族資料博物館
会場／中部大学民族資料博物館（附属三浦記念図書館2階）

ギャラリートーク
11月4日［水］14:00～（申込不要）
司会：中野 智章（中部大学民族資料博物館長・国際関係学部長）
講師：大場 裕一（本展学術企画者・中部大学応用生物学部教授）

中部大学民族資料博物館
CHUBU UNIVERSITY MUSEUM OF ETHNOLOGICAL ART

［開館時間］9:30～16:30（入場は閉館の30分前）　［入場料］無料
［休館日］土曜・日曜・祝日・年末年始・大学が定める休日（行事開催日は開館予定）

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200 TEL.0568-51-9193　FAX.0568-51-9194　E-mail chubu-minzoku@fsc.chubu.ac.jp　https://www.chubu.ac.jp/student-life/facilities/museum/

2026 中部大学民族資料博物館 秋季企画展

発光生物とエスノバイオロジー

Luminous Organisms and Ethnobiology

学術企画者プロフィール



大場 裕一
中部大学
応用生物学部教授
（1970年、札幌生まれ）

小学生から高校生まで西蔵王に近い山形県山形市内の自然豊かな場所で育つ。当時、近所の川にはホタルがいた。北海道大学理学部化学科卒。このとき発光生物の化学を専門とする故・中村英士助教授（当時）に出会う。博士後期課程では、愛知県岡崎市にある基礎生物学研究所で過ごす。博士（理学）。学位論文は魚類の内分泌学。名古屋大学大学院生命農学研究科にて、中村英士教授の研究室の助手から助教。その後、中部大学応用生物学部准教授から教授へ。現在に至る。中部大学民族資料博物副館長を兼任。

発光生物とは、文字通り「みずから光を放つ」生き物です。その不思議な生命現象は、古くから世界中の科学者を魅了してきただけでなく、古今東西の多様な文化や人々の暮らしにも深い影響を与えてきました。

私は発光生物を専門とする生物学者として、これまで世界各地で多くの発光生物たちを観察し、またその地の人々と共に光を見つめながら発光生物にまつわる伝承や文化を聞き取ってきました。さらに、こうした研究活動の傍らで、発光生物の研究史を紐解き、発光生物にまつわる世界中の民話やエピソードを集め、とりわけ発光生物の関わる日本の文化資料のコレクションも行ってきました。そうした活動の中で、先ごろ訪れたパプアニューギニアでの経験は、私に世界のエスノバイオロジー（民族生物学）にあらためて目を開かせる驚きに満ちた異文化体験でした。

そこで今回の企画展では、この「発光生物」という一つの視点から、生き物と人々との豊かな関わりを考えてみようと思います。生物と人間の関係を考える学問を「エスノバイオロジー」といいますが、その根底にあるのは、地域に根ざした民族学的な視点から生き物と人間の関わりを捉え、未来の生物多様性の保全と、持続可能な人類の営みが調和する「グローバルな着地点」を模索することです。

発光生物学者の目線で見た、自然と文化の織りなすエスノバイオロジーの世界へ――果たして私の試みは、皆さまの目にどのように映るでしょうか。どうぞごゆっくりお愉しみください。

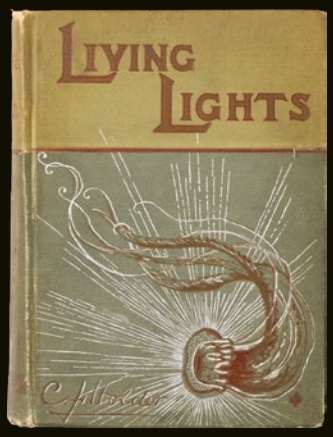
展示資料の概要

展示第1章「発光生物とは」では、企画者の私が世界中・日本国中で見てきたいろいろな発光生物の姿をパネルや動画で紹介しながら、発光生物の多様な世界を体感していただきます。

展示第2章「海の発光生物」では、深海の発光する魚類の実物標本を展示します。腹側に発光器をずらりと並べたギンハダカ、尖った鼻先の奇妙な顔で肛門が光るトウジン、発光する深海のサメ・フジクジラなどを見ていただきます。さらに、深海の発光生物の様子が想像で描かれた19世紀から20世紀の西洋博物画を展示します。深海の生き物のことが徐々にわかってきた歴史を知っていただけます。さらに、海との関連で、世界の貝を使った伝統工芸品や貝のお金（貝貨）などを展示します。

展示第3章「陸の発光生物」では、ホタルの実物標本を展示します。また、日本のホタル文化を伝える江戸～大正期の浮世絵と染付（磁器類）などを多数展示します。これらを通して、日本においてホタルがどのように文化として定着しているかを知っていただけます。さらに、ホタル以外の動物がモチーフになった世界の民族芸術品も展示します。

展示第4章「発光生物と持続可能な私たちの未来」では、私の学術的な研究や発光生物の保全活動についてパネルを使って紹介します。



C. F. ホールダー著『Living Lights』
（1887年／イギリス）（個人蔵）
発光生物を紹介した最初期のポピュラーサイエンス書



三代豊国×初代広重『当盛十花撰 牡丹』
（1858年／日本）（個人蔵）当時の人気歌舞伎役者を描いた浮世絵　蛍籠を手にしている



五寸皿（大正時代／日本）（個人蔵）
蛍狩りをするようすが描かれている



チョウの装飾のかんざし（中国ミャオ族）（館蔵）
ミャオ族にはチョウを自らの始祖とする創世神話がある



深海魚ギンハダカの液浸標本（高知県御畳瀬採集）
（研究室蔵）点状の発光器が腹側にずらりと並んでいる

中部大学民族資料博物館

〒487-8501　愛知県春日井市松本町1200番地（附属三浦記念図書館2階）
TEL 0568-51-9193　FAX 0568-51-9194
ホームページ https://www.chubu.ac.jp/student-life/facilities/museum/　E-mail chubu-minzoku@fsc.chubu.ac.jp

ACCESS

交通のご案内／
JR中央本線「神領」駅下車、
名鉄バス「中部大学前」
（約10分）下車すぐ

